

研修報告書

報告者： 阿部 由貴子 幼児2

研修会名： 第一回東部カナダ日本語教師合同研修 / 意見交換会

日程： 2012年10月21日（日曜日） 9：30～18：00

会場： トロント日系文化会館（JCCC） 2D 会議室

研修内容

1) 絵本「はらぺこあおむし」を使った授業 幼児4～5歳

- 絵本の読み聞かせ（曜日、数、色の導入）
- 本をリプロデュース（工作）
※各児童ごとに自分で作った本を持つことができる。

発表者 レイ英子先生 国語教室

2) 「ようすかるた」を使った授業 幼児4～6歳

- 目的： 擬声語、擬音語、擬態語の学習
- カルタ学習の特徴： 聞く、読む、状況の記憶、繰り返し
- 様子カルタの特徴：
 - ・読み札→上の句、下の句に分かれている
(例、上：ふかふか ういてる 下：あひるのこ)
 - ・取り札→「あ」と水に浮かぶあひるの絵
- 導入： 1人1セット家庭に配付し作らせる。
- 授業： 週に5枚ずつ導入し、上下の句を読み意味を理解する。
- 家庭： 保護者が上の句のみを読み、取れないときのみ下の句を読み練習させる。

※上の句、下の句に分けることにより、状況にあった擬声語、擬態語、擬音語をより効果的に学ばせることができる。

発表者 西野入淳子先生 日修学院

3) 「シャドウイング」を教室で使うアイデア（成人クラス上級）

- シャドーイング： 聞こえてくる音声を遅れず、即座に声に出して繰り返しながらそとついていく。
- 有効性：
 - ・スピーキングとリスニング能力の向上
 - ・発音の改善
 - ・理解力の促進
 - ・プロソディーセンスの養成・強化
(ある言語の音声の特徴と意味を理解し、かつこれを必要に応じて自ら適切に口頭再現できる能力)
- 脳の記憶システム： 「音声のみのインプット」では2秒で記憶から情報が消去される。「音声+動作または視覚のインプット」の場合情報が記憶にとどまる。

- シャドーイングの効用：
 - 音声知覚の自動化と音声知識データベースの質的変換
 - リピーティング：モデル音の記憶は失われているため、脳の記憶にある言語の音を使う
 - シャドーイング：脳にある多言語の記憶を使う前に声に出すため、正しい発音を繰り返すことができる

- シャドーイング導入時の留意点：
 - ・シャドーイング技術の理解。
 - ・知っている言葉でも、同時に発音するのではなく、いったん聞いたものをシャドーイングする。
 - ・上手にする必要はない。完璧に文章を構成できなくてもよい。ひとつでも多くの音を正しく発音することが重要。
 - ・1分ほどのものを2～3回繰り返す。
 - ・ひとレベルの学習者のレベルよりも低い教材を使う。
 - ・フィードバックをわすれずに。

発表者 ハウ博美先生 トロント日本語学校

4) 「生徒に合わせた教材、カリキュラムの作成ー5つの”C”をねんとうにー」

- キングストン日本語教室： 2010年2月より日本語プレーグループの母親9人により開始
- 現在17名、4レベル、3教室に別れ授業を受ける。
- 授業時間1時間+おやつ15分+合同授業15分
- 教科書：BC JALTA 作成「につぼんご1ねん」
 - ※ 日本の教科書とは内容が違う。日本語でカナダの文化について紹介している。児童が身近に感じられる内容になっているために選考。また、日本の同学年の教科書ではレベルも合わないため。

- 5Cを取り入れたカリキュラム作り
 - ※ 5C 外国語（日本語）学習スタンダード
Communication, Culture, Connection, Comparison, Community
 - ・合同授業（5C）紙芝居を上学年が作り、下学年に読み聞かせる。
 - ※上学年児童：自信をつけさせるよい機会になる
 - 下学年児童：目標を持つよい機会になる
 - ・卒業生を招いて交流（Communication, Connection, Community）
 - ※Success storyを紹介しやる気につなげる
 - ・地域や日本語関係にイベントへの参加（Community）

 - ・その他；信号ルールの導入、がんばりシール、ごほうび箱システム

※ 少人数であるからこそできることも多いとの意見もあったが、少人数であることで、児童に多大なメリットがあるように思った。日本語センターでも、人数編成を考慮してみてもよいのではないか。